

情報かわら版

8

今月のトピックス

- ▶ 県立新発田農業高校
生物資源科動物専攻 実習現場に密着！
- ▶ 第8回にいがたオーガニックフェスタ
(阿賀野会場)
- ▶ 津南ひまわり広場のかかし展示
モ〜っとミルクちゃん参上！
- ▶ ノウフク・アワード2025 募集中

電子版はこちら



今月の表紙：ひまわり(津南町)

県立新発田農業高校 生物資源科動物専攻

実習現場に密着!!

7月17日（木）、新発田市本間新田にある新発田農業高校長峰農場に伺い、動物専攻3年生の実習の様子取材しました。

動物専攻の生徒さんは、牛、馬、豚、鶏の担当に分かれて、飼育実習に取り組んでいます。

校舎から長峰農場までは、学校のバスで20～30分。この日は午前と午後の実習で2往復するとのことでした。

<学校紹介>

1年次に農業科として入学し、8専攻（作物・野菜・動物・地域環境デザイン・草花園芸・フラワーデザイン・食品化学・栄養科学）すべてを学習し、2年次より専攻選択別に学習。

*全校生徒数467名

生物資源科（作物・野菜・動物）

2年生57名、3年生59名

うち動物専攻2年生19名（うち女子生徒19名）

3年生19名（うち女子生徒13名）

☆家畜審査競技県大会参加者数 38名

乳用牛の部 最優秀賞 1名 優秀賞 3名

肉用牛の部 優秀賞 5名 学校対抗の部 1位



牛さんチーム



牛の飼料は自家製



ただいま放牧中



放牧後のモグモグタイム



校内唯一の子牛
（つくしちゃん）の散歩



馬さんチーム



体を洗ってもらいご機嫌なカステラ

名前：カステラ 性別：牡
年齢：10歳（令和7年時点）
種類：ポニー
（ポニー×ハフリンガー）
性格：ずる賢い
気性：元気いっぱい
癖：噛み付き



たくさん食べて元気モリモリ



お部屋をきれいに掃除

豚さんチーム



豚の体重測定



寄り添う子豚たち



作業の手を休めてハイポーズ！



お部屋をきれいに掃除

鶏さんチーム



鶏舎



ボリスブラウン
95羽飼養中
※ボリスブラウン：
温厚な性格で高品質な
卵を産む茶色羽色の鶏
卵は赤玉

◎鳥インフルエンザ侵入
防止のため鶏舎での取
材は行っていません。



集卵作業後のお仕事
この日は、ほ場の景観作業で
花文字の定植
「Aしばた♡」作成中

担当の櫻井先生から動物専攻生へひと言



- 動物専攻の生徒達は、常に家畜を大切に扱っている印象があります。
- 基本的に動物が好きで選択している生徒が多数ですが、ペットと産業動物である家畜の違いは理解した上で、愛情をもって管理実習に取り組んでいます。
- ブタの去勢やニワトリの解体実習でも、割り切って前向きに取り組むことができる生徒達です。
- 将来は、家畜や動物関係の仕事に従事する生徒は少ないと思いますが、ウシ、ウマ、ブタ、ニワトリなどに接し家畜から学んだことを活かし将来を歩んでもらいたいと思います。

あとがき

▽実習の合間に生徒さんに声をかけると、さすが！今の子供たちは昔と違い臆面もなく答えてくれました。「3年生だけど卒業後はどうしますか？」の問いかけに、「進学します」、「就職します」、「まだこれから決めます」などと元気に返してくれました。

話していくうちに社会情勢や政治についてドキッとするような話をしてくれる生徒さんもありました。

▽生徒さんの中には、就農ではないものの、専攻で学んだ分野に進む生徒さんもあるとのこと。

農業が、就職先の選択肢のひとつになってくれると最高ですが、生き物と過ごした時間が将来の糧になることを期待します。

取材にご協力いただいた先生方並びに生徒の皆さん、大変ありがとうございました。

第8回にいがたオーガニックフェスタ阿賀野会場

北陸農政局は、令和7年7月20日（日）「第8回にいがたオーガニックフェスタ阿賀野会場」に参加しました。

パネル展示では、農林水産省が令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」及び北陸農政局独自取組「+みどり計画」を紹介。

来場者へリーフレット等を配布し、持続可能な環境にやさしい農業への理解を促しました。



北陸農政局 パネル展示



～ 会場の様子 ～



出店と来場者（出店は計34）

オーガニック農産物の生産者やオーガニック農産物を使用したカフェやキッチンカーが出店。

新潟県内はもちろんのこと、東京都、神奈川県、長野県、静岡県、福岡県、遠くは鹿児島県（種子島）の生産者等も出店し、交流を深めるとともに、来場者との会話も弾んでいました。



阿賀野市オーガニックビレッジ宣言

加藤阿賀野市長は、「次世代へ引き継げる農業として、環境に配慮した農業を推進していきます。」と「阿賀野市オーガニックビレッジ宣言」を行いました。



新潟県拠点ホームページ「フォト・ギャラリー」で紹介しています。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/photo.html>



今後の「第8回にいがたオーガニックフェスタ」開催は
次ページをご覧ください



「第8回にいがたオーガニックフェスタ」は 以下の会場・日程で開催されます



第8回 にいがたオーガニックフェスタ

来て、見て、食べて、つながる地域の輪。



Niigata
Organic
Festa 8th

阿賀野会場	2025.07.20	SAT	10:00-15:00	道の駅あがの
長岡会場	2025.10.12	SUN	10:00-15:00	アオーレ長岡・ナカドマ
新潟会場	2025.10.26	SUN	10:00-15:00	新潟ふるさと村
上越会場	2025.10.26	SUN	10:00-15:30	エルマール イベント広場 無印良品 直江津
津南町会場	2025.11.01	SAT	10:00-15:00	津南町総合センター体育館
柏崎会場	2025.11.02	SUN	11:00-16:00	AT HOME LABO 柏崎
新発田会場	2025.11.09	SUN	10:00-15:00	ヨリネスしばた札の辻広場

各会場公式
Instagram



主催:新潟オーガニック連絡協議会 共催:新発田市(新発田会場)

お問い合わせ <事務局> 高橋孝/shibata.organicfesta@gmail.com

公式サイト niigata-organic-festa.com

※本フェスタは公益財団法人内田エネルギー科学振興財団の助成を受けて開催します。

後援★新潟県 新潟市 長岡市 三条市 柏崎市 小千谷市 加茂市 十日町市 見附市 村上市 燕市 糸魚川市 妙高市 五泉市 上越市 阿賀野市 佐渡市 魚沼市 南魚沼市 胎内市 聖籠町 弥彦村 田上町 阿賀町 出雲崎町 湯沢町 津南町 刈羽村 関川村 粟島浦村 農林水産省北陸農政局 新潟日报社 朝日新聞新潟総局 毎日新聞新潟支局 読売新聞新潟支局 日本農業新聞 長岡新聞社 上越タイムス BSN新潟放送 NST新潟総合テレビ UX新潟テレビ21 TeNYテレビ新潟 NCT FMながおか80.7 (公社)新潟県茶業士会 (一社)新潟県農業会議 生活協同組合バールシステム新潟ときめき

協賛◆(株)U・STYLE NPO法人赤とんぼ J A新潟中央会 (株)マネージメント創研 岡山幼保連携型認定こども園 J A佐渡自然栽培研究会 自治労新潟県本部 全農林新潟分会 (株)ささかみ 新潟県・食と環境ネットワーク (有)小田製陶所 (株)新潟クボタ 自然栽培新潟研究会 菊水酒造(株) 日本自然環境専門学校 協同組人田畑 新潟総合学園 新潟食料農業大学 新発田市 片山商事 (株)ナチュレ片山 岩村兼鑑(株) (株)ホーネンアグリ (有)津南高原農産 (一社)和・道厚生事業団 (川室記念病院 高田西城病院 上越老人福祉協会 上越つくしの里医療福祉協会 上越保健医療福祉専門学校) (株)ミヤトウ野草研究所 (株)高菱 (株)ミタカ (株)百姓や本舗 (株)ソフィー (株)農業法人久比岐の里 癒しの宿 旅館 田端屋 させきのお結び家 ゆい

モ〜っぴゅ〜ルルクちゃん参上！

津南町の真夏の風物詩。

「津南ひまわり広場」が8月1日から24日まで開催されました。

「ここでの「かかし展示会」へ昨年に引き続き「モ〜っぴゅ〜ルルクちゃん」を展示しました。牛乳と（ちっちゃいけど）牛肉、豚肉の需要拡大をアピールしました。

思いを込めた「モ〜っぴゅ〜ルルクちゃん」をご覧いただけたのではないのでしょうか。

ひまわり広場

平成2年に若手農業者が50アールの遊休農地でひまわりを育てたのが始まり。現在は4ヘクタールの畑を3区画に分け、種まきの時期をずらし約50万本の花が長く楽しめるように工夫しています。



来場者インタビュー

（女性友達のお二人🍎🍉）

どちらから来られましたか？

🍎 新潟市からです。

😊 普段、牛乳を飲みますか？

🍎 飲みません。

🍉 わざわざ買ってまで飲むとは思いません。

🍉 毎日飲んでます。

朝はカフェオレにしてます。週に2〜3本（1リットルパック）くらいかな。

意外にも両極端なお話をお聞きし、現実を考えさせられた一コマでした。

2023年の世界の飲用乳の一人当たり年間消費量は、トップがアイルランドの98.6キログラム。日本は約3分の1程度の30.3キログラムです。

牛乳として飲むだけでなく様々な料理にも上手に活用すれば需要拡大に繋がります。

日本人に不足がちといわれるカルシウムの摂取が手軽にできる食品です。

出典：JIDE「世界の酪農家・乳業統計」

是非、普段の食生活にプラスを

農福連携に取り組む優れた事例を表彰！

「ノウフク・アワード2025」エントリー受付中！

～ みんなで耕そう！人・地域・未来の豊かな循環 ～

農福連携等応援コンソーシアム（事務局：農林水産省）は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を表彰する、「ノウフク・アワード2025」の募集を令和7年8月4日（月曜日）から開始しました。

応募対象は農林水産分野と福祉分野が抱える様々な課題の解決等に貢献している団体等で、募集期間は令和7年8月4日（月曜日）から令和7年9月30日（火曜日）までです。

農林水産省HP
プレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/250804.html>



募集期間 令和7年8月4日（月）から令和7年9月30日（火）まで



応募対象

地域において、農林水産業で障害者等の多様な能力が発揮され、農林水産分野、福祉分野が抱える様々な課題解決や、障害者等の社会参画の実現、地域農林水産業の維持・発展、更には地域活性化にも貢献している団体等



応募方法

「ノウフク・アワード2025特設サイト」から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、応募フォームよりファイルをアップロードして、ご応募ください。その際、自薦・他薦は問いません。

▶ ノウフク・アワード2025特設サイト

<https://noufuku.jp/award/award2025/>



新潟県内の過去の受賞団体

【2021年 審査員特別賞】 特定非営利活動法人立野福社会（佐渡市）

【2021年 フレッシュ賞】 CuRA!（新潟市江南区）

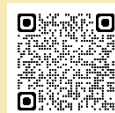
【2020年 優秀賞】 認定・特定非営利活動法人UNE（長岡市）



各団体の取組は、「ノウフク・アワード・アーカイブ」で紹介されています。ぜひご覧ください！

▶ ノウフク・アワード・アーカイブ
（過去の受賞団体の取組）

<https://noufuku.jp/award/?archive=1>



防災推進国民大会 2025 in 新潟

防災推進国民大会（通称 ぼうさいこくたい）は、内閣府等が主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。2016年から開催しており、2025年（第10回）は、新潟市で開催します。

新潟県は、2004年中越地震等を経験しており、その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えます。



日程 2025年9月6日（土）・7日（日）

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

主催 防災推進国民大会 2025実行委員会

（内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議）

▶ ぼうさいこくたい 2025 in新潟

<https://bosaikokutai.jp/2025/>



プログラムのご紹介

防災についての多様な内容のプログラムにご参加いただけます。

○ 9/6（土）14:30～16:00

「南海トラフ地震などの巨大地震をどのように乗り越えるか」

○ 9/7（日）14:30～16:00

「火山防災の日 啓発イベント ～火山と共に生きる未来へ～」

詳しくはこちら ⇒ <https://bosaikokutai.jp/2025/program/>



編集後記

「第8回にいがたオーガニックフェスタ阿賀野会場」に行ってきました。

県内外の有機農産物やその加工品を販売するお店が軒を連ね、イベントでしか手に入らないような商品や新鮮な野菜、美味しい屋台グルメなど盛沢山でした。

皆様も、お近くで開催された際に足をお運びいただければ、「美味し・楽しい」が待っていると思います。（その時には、ぜひぜひ北陸農政局のブースで、アンケートにご参加ください。）



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

